

論壇

膨らみ続ける財政赤字

世界の多くの国で貧富の格差の拡大に注目が集まっている。それに伴って、富裕税を強化する議論が起きている。格差が広がる理由はいろいろあるし、格差にも所得格差や資産格差などさまざまなものがある。格差を是正するために多様な政策手段が考えられる。そうした中で富裕税が論議されるのは自然な流れだ。それによって格差を縮めることが可能であるし、何よりも富裕層に税負担能力があるからだ。日本で今、富裕税の議論が具体化しているわけではない。ただ、財政状況が厳しくな

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

る中で、富裕税を強化する流れは必然的であるように思える。

日本の財政は厳しい状況にある。すでに膨大な公的債務が存在し、これを減らしていかななくてはどこかで大きな危機にさらされることになる。それに加えて、少子高齢化の中で医療や介護などの社会保障費が拡大することで、財政

富裕税の論議 自然な流れ

赤字が膨らみ続けている。赤字は公的債務の増大につながる。

こうした財政問題に対応するためには、歳出をさらに削るか、それとも歳入を増やすかが必要となる。歳出を削減する努力は必要だが、削減対象は医療・介護・年金以外にはあまり見当たらない。教

育や公共投資などはすでに削られるだけ削っている状況で、これ以上の削減は難しい状況だ。ただ、医療・年金・介護への支出を削ることは国民の生活を直撃することになり、これも非常に困難である。

では、歳入を増やすという方策はどうだろう。欧州などを参考にすれば消費税率をもう少し引き上

相続税の財源にも期待

日本の個人金融資産の総額は1950兆円であるという。その50%以上は、65歳以上の人が保有している。約1千兆円の金融資産を65歳以上の人が持っている計算になる。こうした資産はいずれ相続の対象となる。相続税を引き上げ

ることも可能だろう。現実にも高齢化の波を乗り切るためには消費税率の引き上げを真剣に考えなければいけない。ただ、それでも税収効果は十分ではない。また、消費税の引き上げは、特に所得の低い世帯には厳しい影響が出てく

る。そこで、富裕税に注目が集まる。富裕層の最高税率を引き上げた

り、株式の配当や利益(キャピタルゲイン)への税率を引き上げた

れば、将来、大幅な税収が期待できるとなる。

消費税でも相続税でも、増税は歓迎されるものではない。ただ、死亡した人には相続税の負担感はない。変な言い方だが、幽霊に税金をかけるということだ。相続の財産を期待する子供たちなどには増税はうれしくないだろうが、相続財産があるというのはある意味恵まれたことであり、そこへの税金はある種の富裕税と考えられなくもない。今すぐに相続税の増税をすべきであると言っているわけではない。ただ、日本の厳しい財政状況、そして所得や資産の格差拡大の中で富裕税を求める声が世界的に高まる中で、相続税の財源に期待する動きが政治的に強くなることは自然な流れのように思える。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。